

# 財政状況等一覧表（平成20年度決算）

(単位:百万円)

団体名 黒滝村

標準収入額等 A	普通交付税額 B	臨時財政対策 債発行可能額C	標準財政規模 A+B+C
114	685	38	837

## 1. 一般会計等の財政状況

(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの 繰入金	地方債現在高	備考
一般会計	1,465	1,372	93	85	20	1,563	
一般会計の内 公営事業会計分	0	0	-	-	-	-	介護サービス事業
一般会計等	1,465	1,372	93	85		1,563	

※「一般会計等」の数値は、各会計間の繰入・繰出などを控除(純計)したものであることから、各会計間の合計額と一致しない項目がある。

## 2. 公営企業会計等の財政状況

(単位:百万円)

会計名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不 足額(実質収支)	他会計等からの 繰入金	企業債(地方 債)現在高	左のうち一般会計 等繰入見込額	備考
国民健康保険事業会計 (事業勘定)	130	110	20	20	11	-	-	
国民健康保険事業会計 (直診勘定)	107	102	6	6	-	4	-	
老人保健医療事業会計	22	19	4	4	-	-	-	
介護保険事業会計	179	165	13	13	35	-	-	
後期高齢医療事業会計	16	16	-	-	8	-	-	
簡易水道事業会計	84	83	0	0	20	114	106	
下水道事業会計 (小規模集合排水処理)	2	2	0	0	2	17	15	
下水道事業会計 (特定地域生活排水処理)	55	55	0	0	41	207	179	
公営企業会計等計				42		343	300	

- (注) 1. 法適用企業とは、地方公営企業法の全部又は一部を適用する公営企業である。  
2. 法適用企業会計以外の特別会計については「総収益」「総費用」「純損益」の欄に、それぞれ「歳入」「歳出」「形式収支」を表示している。  
3. 「資金剰余額/不足額(実質収支)」は、地方公共団体財政健全化法に基づくものであり、資金不足額がある場合には負数(△～)で表示している。  
4. 「左のうち一般会計等繰入見込額」は、企業債(地方債)現在高のうち将来負担比率に算入される部分の金額である。

## 3. 関係する一部事務組合等の財政状況

(単位:百万円)

一部事務組合等名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不 足額(実質収支)	他会計等からの 繰入金	企業債(地方 債)現在高	左のうち一般会計 等負担見込額	備考
奈良県市町村総合事務組合	4,935	4,914	21	21	1,512	-	-	
中吉野広域消防組合	704	673	30	30	-	89	2	
南和広域衛生組合	1,447	1,416	30	30	100	869	30	
奈良県広域水質検査センター組合	124	113	10	10	-	-	-	
南和広域衛生組合	120	76	44	44	-	-	-	
奈良県後期高齢者医療広域連合	1,856	1,835	21	21	341	-	-	
一部事務組合等計				156		958	32	

## 4. 地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況

(単位:百万円)

地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は 正味財産	当該団体から の出資金	当該団体から の補助金	当該団体から の貸付金	当該団体からの 債務保証に係る債務残高	当該団体からの 損失補償に係る債務残高	一般会計等 負担見込額	備考
(財)黒滝森物語村	△ 3	47	30	3	-	-	-	-	
黒滝村社会福祉協議会	2	36	1	8	-	-	-	-	
地方公社・第三セクター等計			31	11	-	-	-	-	

(注) 損益計算書を作成していない社団・財団法人は「経常損益」の欄には当期正味財産増減額を表示している。

## 5. 充当可能基金の状況

(単位:百万円)

充当可能基金名	平成19年度 決算 A	平成20年度 決算 B	差引 B-A
財政調整基金		278	
減債基金		1	
その他充当可能基金		362	
充当可能基金計		641	

(注)「充当可能基金」とは、基金のうち地方債の償還等に充当可能な現金、預金、国債、地方債等の合計額をいい、貸付金及び不動産等を含まない。

## 6. 財政指標の状況

財政指標名	平成19年度 決算 A	平成20年度 決算 B	差引 B-A	早期健全化 基準	財政再生 基準	資金不足比率 (公営企業会計名)	平成19年度 決算 A	平成20年度 決算 B	差引 B-A
実質赤字比率	5.01	10.20	5.19	△ 15.00	△ 20.00	簡易水道事業会計	-	-	-
連結実質赤字比率	10.97	15.22	4.25	△ 20.00	△ 40.00	下水道事業会計 (小規模集合排水処理)	-	-	-
実質公債費比率	19.7	18.5	△ 1.20	25.0	35.0	下水道事業会計 (特定地域生活排水処理)	-	-	-
将来負担比率	79.9	54.8	△ 25.10	350.0					
財政力指数	0.13	0.12	△ 0.01						
経常収支比率	111.1	108.0	△ 3.10						

- (注) 1. 「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「資金不足比率」は負数(△～)で表示している。  
2. 「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」は、収支が黒字の場合には便宜的に当該黒字の比率を正数で表示している。  
3. 早期健全化基準に相当する「資金不足比率」の「経営健全化基準」は、公営競技を除き、一律△20%である(公営競技は0%)。  
4. 「早期健全化基準」及び「財政再生基準」は平成20年度決算における基準である。